

平成31年度  
筑波大学法科大学院  
[ビジネス科学研究科法曹専攻]  
(専門職学位課程) 法学未修者コース 入学試験

論文試験問題

(120分)

受験番号	氏名

注意事項

- 1) この問題冊子の表紙に、受験番号、氏名を記入してください。
- 2) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 3) 試験開始後、この問題冊子が表紙と余白頁を除いて10頁であること、答案用紙が2枚あること（1枚目：【問Ⅰ（設問1）】及び【問Ⅰ（設問2）】、2枚目：【問Ⅱ（設問1）】及び【問Ⅱ（設問2）】）を確認してください。
- 4) 試験開始後、2枚の答案用紙それぞれに、受験番号を記入してください。
- 5) 筆記用具は、鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。消しゴムを使用することができません。
- 6) 下書きは、問題冊子の2頁及びその他の頁の余白や裏面を適宜利用してください。
- 7) 問題冊子は持ち帰ることができません。答案用紙とともに提出してください。
- 8) 試験開始後30分間、試験終了前10分間は、退出できません。

(余白頁) 下書きはこの頁やその他の頁の余白、裏面を利用してください。

問Ⅰ 下記の文を読んで、次の各設問に答えなさい。(注：法律の専門的知識を問うものではありません。)(配点50点)

(設問1)

筆者は、親を捨てなければ過酷な現実を生き残ることができなくなっていると述べていますが、過酷な現実とはどういう状況でしょうか、筆者の述べるところを200字以内で説明しなさい。(15点)

(設問2)

「親を捨てること」に関する筆者の見解と、それに対するあなたの考えを、併せて400字以内で述べなさい。(35点)

著作権法により公開しておりません。

[問Ⅰの文]

出典：島田裕巳『もう親を捨てるしかない—介護・葬式・遺産は、要らない』(幻冬舎、2016年) 20頁～42頁、193頁～194頁、204頁～206頁

(出題者注1) \*

「利根川心中」と名づけられた事件は、2015年11月に埼玉県に両親と同居していた三姉妹の末っ子である三女が、車ごと利根川に突っ込み、一家心中をはかり、認知症の母親を殺した罪および病気の父親に対する自殺幫助の罪で逮捕された事件である。

(出題者注2)

出題に際して、見出しおよび文章の一部を省略している箇所がある。文章を省略した箇所は、〈中略〉と表示している。また、原文における引用の略は、〔略〕と示している。

問Ⅱ 下記の文を読んで、次の各設問に答えなさい。(注：法律の専門的知識を問うものではありません。)(配点50点)

(設問1)

下線(1)のように筆者が述べる理由について、300字以内で説明しなさい。(30点)

(設問2)

下線(2)のように、筆者が、心理学者は「特権的存在者」の地位を捨てる必要があると述べている理由について、250字以内で説明しなさい。(20点)

著作権法により公開しておりません。

[問Ⅱの文]

出典：高木光太郎『証言の心理学 記憶を信じる、記憶を疑う』(中公新書、2006) 5頁～7頁、67頁～70頁、85頁～90頁

(出題者注1) \*

「生態学的記憶研究」とは、筆者によれば、頭のなかの「情報」としての記憶ではなく、過去とのかかわりのなかで展開している人々の日常的な「行為」として記憶を理解することをめざす記憶研究であり、動物の身体の仕事みや構造を分析する生物学ではなく、自然環境のなかで動物がどのように振る舞うのか(例えば、アルコール依存症者の回想、大地震の前兆現象の記憶、酒場で過去の試合について熱く語りあうプロレスファン、明治期に人々を熱狂させた記憶術、授業について語りあう教育実習生と指導教師)を観察する動物行動学のように記憶にアプローチするものである。

(出題者注2)

出題に際して、見出しおよび文章の一部を省略し、漢数字を算用数字に変えている箇所がある。文章を省略した箇所は、〈中略〉と表示している。また、原文における引用の略は、〔略〕と示している。